

ザ コカ・コーラ カンパニーの 責任あるマーケティングポリシー

2015年9月25日

ザ コカ・コーラ カンパニー (TCCC) は、自社製品の責任あるマーケティングに取り組んでいます。TCCCはその歴史を通じて、サステナビリティ (持続可能性) や事業活動の目標、そして当社の価値観に適う商慣行のもとに事業を行ってきました。「責任あるマーケティングポリシー」では、この点における当社の方針を次のように定めています。

TCCCは親や保護者の役割を尊重し、12歳未満の子供を直接対象とする広告を展開しません。具体的には、次の広告を展開しません。

- 12歳未満の子供を直接対象とするすべての媒体での広告展開。これには、テレビ番組、印刷媒体、ウェブサイト、ソーシャルメディア、映画、SMS/メールマーケティングを含みます。
- TCCCの定義で「12歳未満の子供を直接対象とする媒体」とは、媒体に接触する人のうち12歳未満の子供が35%以上を占める媒体です。この定義は、媒体接触者に関する情報が得られる場合に適用されます。

TCCCは、マーケティングコミュニケーションを設計するにあたり、12歳未満の子供に直接訴求することのないよう配慮します。具体的には、本ポリシーを適用後に制作するいかなるコミュニケーションにおいても、次の素材を使用しません。

- 主に12歳未満の子供を訴求対象とする著名人やキャラクター。ただし、すでに使用しているコカ・コーラ社製品のブランドキャラクターは除きます。
- 主に12歳未満の子供を訴求対象とする映画とのタイアップ
- 主に12歳未満の子供を訴求対象とするゲームやコンテスト
- 主に12歳未満の子供を訴求対象とするブランドの玩具
- 大人がそばにいない状態で12歳未満の子供がTCCCの製品を飲用している画像
- 主に12歳未満の子供を対象とするスポーツやエンターテインメントのイベントで、ブランドを掲げたスポンサーシップ

TCCCはグローバル企業として、教育現場に特有の環境を認識し、これを尊重して「コマーシャルフリーな教室」(校内の広告宣伝ゼロ) を信条としています。したがって、小学校 (初等教育) では商業広告を展開しません。本ポリシーには、以下の指針が組み込まれています。

- TCCCのグローバル スクール ビバレッジ ガイドライン (小・中・高等学校向け清涼飲料販売のグローバルガイドライン)
- 各地域で適用されている学校関連の追加のガイドライン

コカ・コーラシステムは、世界各地で12歳未満の子供が対象の教育プログラム、特に「活動的で健康的な生活習慣」の促進に重点を置いたプログラムを支援しています。子供が対象のプログラムでブランドを掲げるのは、あくまで資金援助やスポンサーシップを示すためであり、宣伝が目的ではありません。

TCCCは、責任あるマーケティングポリシーを順守し、第三者の検証結果を公表していきます。